

地域連携支援プログラム

報告書

(令和元年度)

東海学園大学

# 地域連携支援プログラム報告書（令和元年度）

## 目次

### 令和元年度実践プロジェクトから

- 【全学共通教育機構 1】「地域社会と共生」・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 【経営学部 7】大垣市上石津町 PR イベント「田舎へ Go!」の企画・実施・・・・・・・・・ 3
- 【人文学部 2】「天白カルタプロジェクト」地域カルタ制作の取り組み・・・・・・・・・・・・・ 5
- 【教育学部 12】第 51 回おかざきマラソン医療救護ボランティア・・・・・・・・・・・・・ 7
- 【スポーツ健康科学部 2】みんなでつくろう！ニコニコスポーツ 2019・・・・・・・・・・・・・ 9
- 【健康栄養学部 5】「秋の野菜まんぷく弁当」共同開発・・・・・・・・・・・・・ 11
- 【健康栄養プラザ 4】幼児食講座 ～しっかり噛んで食べるために～・・・・・・・・・・・・・ 13
- 【学生支援課 2】天白区クリーンウォーキング・・・・・・・・・・・・・ 15
- 【三好ともいきスポーツクラブ 9】「ともいき体操くらぶ」・・・・・・・・・・・・・ 17

### 地域連携支援プログラム全活動概要一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

### 域学連携一覧

#### みよし市との包括協定による活動一覧

- ・【経営学部 1】「名古屋グランパスエイト」との名鉄三好丘駅における J1 成績ボードの設置・運営・20
- ・【経営学部 2】「(株)夢たまご」とのみよし市における新名物お菓子の開発とプロモーション・・・・20
- ・【経営学部 8】みよし市市制 10 周年記念グランパスガチャガチャの企画・設置・・・・・・・・・・・・・ 20
- ・【人文学部 1】コミュニティ FM「みよしコミュニティニュース」・・・・・・・・・・・・・ 21
- ・【スポーツ健康科学部 2】みんなでつくろう！ニコニコスポーツ 2019・・・・・・・・・・・・・ 25
- ・【スポーツ健康科学部 3】三好特別支援学校小学部体育授業支援ダンス交流・・・・・・・・・・・・・ 25
- ・【スポーツ健康科学部 7】みよし市立中部小学校への学校支援ボランティアの派遣・・・・・・・・・・・・・ 25
- ・【スポーツ健康科学部 9】みよし市立黒笹小学校への学校支援ボランティアの派遣・・・・・・・・・・・・・ 25
- ・【図書館 1】図書館開放・・・・・・・・・・・・・ 28
- ・【三好ともいきスポーツクラブ 1～10】・・・・・・・・・・・・・ 34

#### 名古屋市天白区との包括協定による活動一覧

- ・【人文学部 2】天白カルタプロジェクト・・・・・・・・・・・・・ 21
- ・【人文学部 3】【心理学部 1】HUG(避難所運営ゲーム)の実施・・・・・・・・・・・・・ 21・22
- ・【健康栄養学部 8】みんなの元気フェスタ in てんぱく・・・・・・・・・・・・・ 27
- ・【図書館 1】図書館開放・・・・・・・・・・・・・ 28
- ・【学生支援課 2】天白区クリーンウォーキング・・・・・・・・・・・・・ 32
- ・【学生支援課 3】天白区民まつり・・・・・・・・・・・・・ 32
- ・【地域連携課 1・2】子ども支援・・・・・・・・・・・・・ 33
- ・【地域連携課 3】公開講座「歌舞伎の楽しみ(2019 春)」・・・・・・・・・・・・・ 33
- ・【地域連携課 8】公開講座「歌舞伎の楽しみ(2019 秋)」・・・・・・・・・・・・・ 33

【 】内の数字は P19～34 全活動概要一覧の各単位の表番号を示す

# 全学共通教育機構『地域社会と共生』

## 1. 目的・概要

2019年5月に「令和」の世を迎え、本学は創立25年目を迎えた。こうした新たな時代への転機を捉え、「共生」の精神を備えた人間力を育み、環境問題に対処できる人材養成を目指して、「東海学園大学共生（ともいき）プロジェクト」をスタートさせた。その一環として、2019年2月、岐阜県中津川市と本学の連携・協力に関する包括協定締結を行った。本協定では、地域社会の発展、人材育成及び学術の振興への寄与を目的に両者が包括的な連携のもと相互に協力していくことを目指している。その協定に基づき、「ともいき実践教育」として新たに開講した全学共通科目『地域社会と共生』において、環境について学びつつ、人間力を養う実践活動として、中津川市加子母地区での植樹活動を中心に、9月2日（月）から9月6日（金）、26名の2年生学生とともに授業を展開した。

本授業は、学内での講義と2泊3日（ふれあいのやかた かしも）の中津川市加子母地区でのフィールドワーク（植樹活動）を中心に、自然環境や地域社会に対する共生に向けた取り組みを学ぶことにより、「共生」を通じた「ものの見方」を養い、課題発見力および課題解決力を理論と実践によって修得することを目的としている。また、地域の文化や歴史を学ぶと同時に、地域のリーダーや教育者としての将来を考えるために、加子母地区の子ども達との実践的な触れ合いの場も設けた。

### 1) 植樹活動を通じた環境保全活動（9月4日（水））

加子母地区は古くからの木材の産地で、松原武久学長が名古屋市長時代に計画を進めた名古屋城本丸御殿の用材にヒノキが使われた縁のある地区である。本学は、中津川市との協定に基づき、市有林約2,970平方メートルの貸与を受け、学生が加子母森林組合の指導で森づくりに取り組む中で、環境問題や中山間地の現状などに理解を深めた。

『令和ともいきの森』の開所にあたり、記念式典には、松原武久学長や青山節児中津川市長のほか、加子母小学校の4年生児童（15名）、本学学生、関係者ら合わせて約100名が出席した。『令和ともいきの森』と入った東濃ヒノキ製の看板の除幕に続き、代表者がヒノキ、コウヤマキ（市の木）、イチイ（県の木）などを記念植樹した。さらに、学生と児童は協力してスモモやクリ、ヤマザクラなどの苗木160本を植え、『令和ともいきの森』づくりの一步がスタートした。



## 2) 造形プログラムを通じた地域の児童との交流 (9月4日(水))

植樹活動を通じた加子母小学校の児童との出会い、この場所から感じられるインスピレーションをもとに、造形プログラムを行った。まず、植樹活動を行う『令和ともいきの森』で、自然素材である「枝」を1、2、3年生児童(46名)と一緒に集め、小学校の校庭で「枝」に様々な糸を一人ひとりの思いを込めて巻き付けた。そこからさらに、6つのグループに分かれ、それぞれの形を組み合わせることで共同で大きな造形に発展させ、「加子母」の自然から生まれる楽しい空間を創作した。身の回りにある何気ない素材が、造形活動を通して、アートという表現に生まれ変わることを児童らとともに実体験した。



## 3) 文化、歴史等の理解 (9月5日(木))

『令和ともいきの森』づくりにあたり、「山守資料館」にて旧尾張藩の御山守の歴史、古文書から見た東濃ヒノキと山守の関係について学んだ。また、「かしも明治座」にて、芝居小屋の建設背景、地域との関わり、ヒノキとの関わりについて学ぶなど加子母の文化・歴史にも触れ、加子母の地域住民が環境や歴史、文化を地域全体で大切に守っていることを学んだ。

## 2. 担当部局

教員 小島 雅生 東海学園大学教育学部 教授

田中 望 東海学園大学スポーツ健康科学部 講師

糸魚川 政孝 東海学園大学全学共通教育機構長

学生 経営学部2年生(2名)、教育学部2年生(14名)、スポーツ健康科学部2年生(10名)

## 3. 所見・成果

『地域社会と共生』は、体験型学習を重視した授業で、本学の教育の理念である「共生」の実践の場として位置付け、人間力を養うことを目指している。また、人が生きていく中で、自然・社会との繋がりを、地域への貢献という視点から理解し、自然・社会・地域への関心の向上を促進することを目的としている。

学生は、植樹活動を通して、自然環境について理解し、環境を保全するために、今できることを考えることができた。また、加子母の児童との交流を通して、地域のリーダーや教員になることの自覚と向上心を高めることができた。さらには、加子母地区の自然、文化、歴史等を学ぶことにより、SDGsを基盤とした幅広い教養と人間力を養い、主体的に行動できる実践力を学び、自身の感性を育むことができた。

引き続き、『令和ともいきの森』の成長とともに、森づくりや地域との交流を通して自然や環境の深い関わりを学び、主体的に行動できる実践力と人間力を養うことにより、「共生」の精神がこれからの社会で求められる自然環境の保全や地域社会の活性化に寄与できることを願っている。

# 大垣市上石津町 PR イベント「田舎へ Go！」の企画・実施

## 1. 目的・概要

本活動は、大垣市上石津町をより多くの人に知ってもらい、同地域の活性化を目指すとともに、学生たちがフィールドワークを取り入れた実践的な学びの場を通じて、主体的に学び、互いに協力しながら活動することで机上の学習だけでは身に付けられない能力の取得を目指すものである。

経営学部伊藤ゼミ 2 年生の 18 名はインターネットで同地域の情報収集をしたうえで、2019 年 2 月 8 日（金）～9 日（土）の日程で現地調査を行った。その後 3 つのグループに分かれ、企画案を練り上げた。2019 年 5 月 23 日（木）、関係者の方々に来校いただき、各グループが企画案のプレゼンテーションを行った。詳細についての打ち合わせを繰り返し、最終的には 3 グループの良いところを組み入れた盛り沢山のイベント「田舎へ Go！」が決定した。

イベント内容が決定した後は、SNS での情報発信、みよし市内の小学校へのビラ配布、新聞への折り込み広告など様々な広報活動を手分けして行った。

イベントは 2019 年 11 月 3 日（日）～4 日（月）で実施され、8 組のファミリー 27 名が参加された。イベントは大盛況のうちに終了することができた。

なお、本活動は 2019 年 1 月に本学と大垣市が取り交わした覚書に基づいて行われた。委託金なし。



## 2. 担当部局

教員 伊藤 久司 東海学園大学経営学部 教授

学生 東海学園大学経営学部伊藤ゼミ 2 年生 (18 名)

岐阜県大垣市上石津地域事務所

上石津まちづくり協議会

## 3. 所見・成果

現地調査ではこれまで行われてきた歴史体験ツアーに参加したり、地元の特産品の試食、地元の方々とのコミュニケーションなど、ネットでは調べることができない情報に触れ、現地に足を運ぶ大切さを痛感した。また、1泊2日の日程であったため、ゼミ生間の交流も一気に深まった。



まずは学生たちがお勉強



地元のハーブティーやアイスクリームを試食

グループごとに企画を考える際は、自身の考えを伝える難しさ、相手の考えを受け入れる難しさ、グループとしての意見をまとめ上げる難しさなど様々な困難を経験するとともに、企画がまとまった時の達成感、企画が採用された時の高揚感も味わうことができた。また、他のグループのプレゼンテーションを聞くことで、プレゼンテーション資料、プレゼンテーションでの話し方の重要性を学んだ。

広報活動については、SNS での情報発信が思ったように拡散しないこと、多忙な小学校の先生に話しをなかなか聞いてもらえないことなどを経験したが、めげずに続けた結果、大垣市が想定していた以上の申し込みがあった。(これまで市が企画した類似のイベントで、申し込みをした方にお断りの連絡をしたことはなかったと伺った)

PR イベント「田舎へGo!」には、<甲冑体験>、<シイタケ狩り>、<BBQ>、<LED 星座作り>、<刺し子体験>、<QR コードラリー>、<ピザ作り>、<ハーブ収穫>などの企画が盛り込まれた。これらの企画は、子供たちはもちろん、大人の方々にも満足していただけたが、実際に企画を運営していくと、準備不足、打ち合わせ不足などでスムーズに進行しない部分があり、その場で対応するとともに、次回に向けた改善点を考えながら携わることができた。イベント終了後に行われたアンケート調査では、好意的な回答ばかりで、同様な企画が実施されれば次回も参加したいという感想も多く見受けられた。また、この活動は2019年11月7日付の中日新聞(西濃総合)で紹介された。



甲冑体験を見守る学生たち



初めてのシイタケ狩り



出来上がりに大満足！LED 星座作り



最後は参加者全員で記念撮影

大垣市上石津町の住民組織「上石津まちづくり協議会」と東海学園大経営学部(愛知県みよし市)の学生が企画した体験ツアー「田舎へGO!」が三、四日、かみいしづ緑の村公園などで開かれた。応募二十二組から抽選で選ばれた名古屋市、愛知県みよし市などいづれも県外の八組二十七人が、一泊二日の日程で、上石津の魅力に触れた。

初日は関ヶ原合戦で戦死した薩摩藩の武将、島津豊久について説明を受けて甲冑のレプリカを試着。地元特産のシイタケ狩りも楽しんだ。二日目は、地元の「時山さしこクラブ」のメンバーの指導で刺し子をあしらったしおり作りや、ピザ作りなどを体験した。

千葉県浦安市から家族四人で参加した藤原奈々絵ちゃん(六)は

## 上石津で田舎体験楽しむ

### 1泊2日ツアーに県外の27人

「甲冑は重かったけど、着ることができてうれしかった。キノコ採りも楽しかった」と喜んだ。

ゼミの二年生、菅谷早倉さん(七)は「対象を小学生と保護者に握え、豊かな自然や歴史などの魅力をいかに伝えるかを考えた。みんな笑顔で楽しんでもらった」と話した。協議会のメンバーは「若い人の自線を生き延びたい。ゼミとの協力を続け、新たな魅力を発見してもらい、交流人口増加につなげていきたい」と期待した。

大垣市と東海学園大は今年一月、人材育成や地域振興などを目的に覚書を締結。伊藤久司教授(マーケティング論)のゼミ生十八人は、二月に上石津を訪れて地域資源を確認。体験ツアーの内容づくりにあたって、協議会のメンバーも参加した。(生田貴士)

中日新聞(西濃総合)2019年11月7日付

# 「天白カルタプロジェクト」地域カルタ制作の取り組み

## 1. 目的・概要

地域の特徴、魅力、名所や特産品などを絵と言葉でわかりやすくまとめた地域カルタ制作の取り組みが全国各地で広がっている。地域カルタは郷土カルタとも言われ、古くは1947年に群馬県で作られた上毛かるたが知られている。日本人にとって親しみのあるカルタは、地域を題材にすることで、地域（郷土）の名所、歴史、文化や自然を遊びながら学ぶことができるメディアコンテンツとして活用することができる。人文学部武市ゼミが、名古屋キャンパスの所在地である名古屋市天白区を取り上げたフォトカルタを制作した活動について報告する。

(天白区との包括連携協定あり)

## 2. 担当部局

教 員 武市 久美 東海学園大学人文学部 准教授  
学 生 東海学園大学人文学部 武市ゼミ学生 11名（制作者）  
協 力 天白区区政部企画経理室  
天白区いきいき支援センター

## 3. 内容

### 1) 天白区役所での展示

2018年秋より、フォトカルタの制作を始めた。まず、区の名所、史跡や特徴などを調べ、どのような内容をカルタの札にするのか学生達が話し合った。取り上げる内容を決定後、区西部企画経理室の協力、関連する史跡、施設やイベントなど区内各所取材した。絵札はスマートフォンで撮影した。読み札（「あ」～「ん」）の言葉と紹介したい内容が合うよう、簡潔でわかりやすい言葉選びに知恵を出し合った。完成したフォトカルタをA4の紙にカラー印刷し、2019年1月21～25日に天白区役所ロビーにて展示を行った。

### 2) にこにこ cafe でのカルタ大会

区役所での展示を目にした天白区いきいき支援センターより声掛けがあり、展示したカルタをカルタ製品として制作することとした。支援センターと打ち合わせを重ね、高齢者でも取り易い素材、サイズのカルタの制作に取り組んだ。完成したカルタを用いて、2019年9月18日に天白区在宅サービスセンターで開催されたにこにこ cafe にて地域の高齢者とカルタ大会を行った。

### 3) 区役所への贈呈

2) のカルタを改良し通常サイズのカルタも制作した。学内のスタジオ PC を使用し、Adobe Illustrator で編集したデータを印刷会社に依頼し印刷した。編集作業は予想していたよりも時間を要し、半年以上書いてデータの整理を行った。加えて、札で紹介した場所をまとめた地図と札の内容をより詳しく記載した説明書を冊子に仕上げた。2020年2月4日にゼミ生と担当教員が区役所を訪問し、渡部天白区長に完成したカルタを手渡した。

#### 4. 所見・成果

最初は区役所での展示を目指し制作を始めた天白カルタであるが、様々な場所で地域の方に目に留めていただき、次々と展開し1年半をかけた取り組みとなった。特に9月の天白区在宅サービスセンターでのカルタ大会では、高齢者が札を手取るたびに「この池は子どもが小さいころ遊びに行ったよ。」「この神社に橋がかかっているのは知らなかったわ。」などの会話で盛り上がり、学生たちが取材した中ではわからなかったさまざまなエピソードを聞くことができた。学生たちは、自分たちが制作したカルタが、地域のことを知り、地域について伝えるためのツールになるだけでなく、世代を超えたコミュニケーションツールとして活用できることを学んだ。

カルタは区役所区政企画経理室にて区民への貸し出しをしている。地域活性化や異文化交流への活用が期待される。

天白区ホームページ「区長の部屋」

<http://www.city.nagoya.jp/tempaku/category/163-10-0-0-0-0-0-0-0-0.html>

てんぱくタウンニュース No. 791 2020年3月14日号

本学ガクブログ

2020年2月25日 <https://www.tokaigakuen-u.ac.jp/academics/news/detail.html?id=346>

2019年9月20日 <https://www.tokaigakuen-u.ac.jp/academics/news/detail.html?id=707>

2019年2月8日 <https://www.tokaigakuen-u.ac.jp/academics/news/detail.html?id=638>



カルタ制作風景 1



カルタ制作風景 2



在宅サービスセンターにてカルタ大会



区役所でカルタを贈呈



# 第 51 回おかざきマラソン医療救護ボランティア

## 1. 目的・概要

### <目的>

第 51 回おかざきマラソン大会時の医療救護ボランティア活動を実践し、養護教諭になった際の保健室運営や学校行事での応急救護体制対応に活かす。

### <概要>

日 時：2019 年 11 月 24 日（日）8 時半～11 時半（大会は 9 時～10 時 45 分）

場 所：岡崎中央総合公園および岡崎市内

参加者：岡崎市体育協会職員 6 名、岡崎市民病院救命救急センター医師 1 名、看護師 2 名、  
岡崎消防署赤バイ隊、救急車担当（救急救命士、消防士）計 4 名、マラソン救護担当医 1 名、  
東海学園大学養護教諭専攻 1～3 年生 22 名、東海学園大学教育学部教員（看護師）1 名、  
協定書・委託金なし。依頼状あり。

## 2. 担当部局

岡崎市体育協会が主催。

傷病者発生時は、岡崎市民病院救命救急センターの医師の指揮命令のもと活動する。マラソンコース沿道の救護所、定点隊の事前指導は石田妙美（東海学園大学教育学部准教授）が実施した。

## 3. 所見・成果

おかざきマラソンは、1.4 km（小学生、ジョギング）、3 km（中学生）、5 km、10 kmのマラソンコースがあり、毎年芸能人をゲストに迎え、家族そろって楽しく参加できる岡崎市民にとって人気のある大会である。参加者は例年 5000 人前後である。本学教育学部養護教諭専攻では、第 47 回大会から医療救護ボランティアとしてサポートしている。

医療救護スタッフは、岡崎市民病院救命救急センターの医師看護師、救護本部長（医師）、岡崎消防本部の救急車と赤バイ隊（10 km最後尾ランナーを追尾する AED 搭載バイク）、本学学生 22 名と教員（看護師）1 名である。

救護体制は、マラソンコース沿道 10 地点（AED だけの定点 7 隊、毛布マット等の備品のある救護定点 3 隊）に本学学生が 2 名 1 組で待機、フィニッシュエリアには本学教員 1 名、本部でのロジスチックも本学学生 2 名が担当した。通信手段は携帯電話を使用し、配備や移動等の報告はメッセージアプリ、緊急時は音声通話を利用した。

2019 年 11 月 24 日（日）大会当日の天候は、早朝の小雨は開始前には上がり、曇天のマラソン日和であった。おかざきマラソンは岡崎中央総合公園から岡崎市内を走るコースで、定点隊、定点救護隊は交通規制開始前に市街の指定された場所に配置につき、不測の事態に備えなければならない。今回はバスの遅延により集合時間に全員揃うことができなかったが、マラソン開始時には全員配置につくことができ、救護体制が整った。

9:00 にクォーター（10 km）部がスタートし、9:10 に 5 km と 3 km（中学生の部）が同時スタートし、ランナーたちが順調にフィニッシュし始めた。10:45 にスタートする 1.4 km（小学生の部）、ジョギング

コースに参加する小学生や親子がスタート地点に移動しはじめ、大会は順調に進んでいった。

沿道にいる定点隊の学生たちも、打ち合わせ通り順次移動し、配置移動の報告も順調であった。

ところが、10時01分、フィニッシュエリアでランナーの様子を観察していた教員の携帯電話にコール音が鳴った。フィニッシュに一番近い競技場外の定点1の学生からの音声通話であった。心肺停止のランナーが発生し、AEDを準備しているとの報告である。119通報と救護本部への連絡を確認し、学生に119通報を指示、本部へCPA事案発生を伝えるとすぐに待機していた救命医が救急車に同乗し現場に向かった。

現場では、男性ランナーが胸骨圧迫を女性ランナーがAEDのパッドを患者の胸に装着し、定点1の学生が記録をとっていた。電気ショック1回で傷病者の意識が戻り、学生が氏名と年齢を尋ねると応答があった。そこに救急隊員と救命医が到着し、救急車で病院搬送となった。傷病者は、数日入院後社会復帰されたとのことである。

岡崎中央総合公園のグラウンドでは、その後予定通り1.4kmの小学生の部とジョギングの部が終わり、大会は無事閉会した。今回の救護所利用者は先の心肺停止事案1名と擦過傷などの軽症6名、計7名であった。

おかざきマラソン大会でのCPA事案は、今回が初めての発生であったが、迅速かつ的確な対応により一命をとりとめ社会復帰できた。これは、以下の幸運が重なったことに起因する。1つ目は、事案発生場所が定点隊の配置している場所に近く、人混みで姿を見ることはできないが救助を求める声がかろうじて聞こえる場所であったため、現場にすぐにAEDを届けることができ、心停止から4分後に除細動を実施することができたこと。2つ目は、傷病者のすぐ後ろを走っていたランナーが、勤務先の社内で心肺蘇生法を指導している者で、倒れてすぐに体位変換し、的確な胸骨圧迫を開始できたこと。3つ目は、そばにいた女性ランナーが看護師で、素早くAEDを扱うことができたことである。また、本学の学生も事案発生後すぐに教員に連絡することができたので、救命医や救急車を素早く現場に向かわせることができた。

今回バイスタンダー（傷病者の近くにいる人）によるスピーディーな対応がいかに重要であるかを実感する貴重な体験をすることができた。学校管理下においても毎年心肺停止事案が発生している。学校行事などの緊急事案に備える救護体制を考えたり、救命救急対応のスキルアップをしたりと今後も自己研鑽をつみ、地域連携行事はもちろんのこと、学校における児童生徒等の命にかかわる事案においても冷静かつ迅速に対応できるよう、資質向上を目指したい。



# みんなで作ろう！ニコニコスポーツ 2019

## 1. 目的・概要

### <目的>

本イベントは、1) イベントマネジメントの実践学習、2) スポーツ指導者・レクリエーション支援者としての実践学習、3) スポーツ・レクリエーションを通じた地域貢献を目的として実施しており、イベントの企画から当日の運営・指導に至るまでの全てが学生主導によって展開されている。みよし市と本学の包括協定によって実施されている小学生を対象としたスポーツ・レクリエーションイベントであり、今年で6回目を迎えた。

### <概要>

本イベントの企画・運営に参画している学生は、スポーツ健康科学部専門演習Ⅰ履修者（3年生）および専門演習Ⅲ履修者（4年生）であり、いずれも井澤ゼミ生である。

本イベントの特記すべき点は、上述した通り最初から最後まで全て学生自身が意思決定し実行していく点にある。指導教員がはじめにイベントマネジメントに関する知識学習を実施する以外は4年生を中心として全てが執り行われていく。イベント企画・運営の段階では、各小学校との交渉窓口を担当する「小学校担当」、イベント内容の骨子を立案する「プログラム担当」、広報活動全般を担当する「広報担当」、イベントに必要な備品等の調達やイベント予算の管理を担当する「備品担当」を設け、全員がいずれかの部署に配属されて役割を担う。また、学生自身（小学校担当）が直接、各小学校の教頭先生にアポイントを取ってイベントへの協力依頼の為にプレゼンテーションを行ったり、広報活動として学生（広報担当を中心とした有志）が小学校の朝礼や昼休みに児童を訪問し、プロモーションを行うなどの取り組みも行っている。これらの活動が実践できている背景には、各小学校の教頭先生が本イベントを通じた学生教育と地域活動に対する理解と協力を示してくれていることにあり、今後も地域と連携した学生教育の実践を進めていきたいと考えている。



部署内ミーティングの様子



朝礼での広報活動の様子

イベント本番は3日間にわたり、各日ともに9:00から1時間半を低学年プログラム、10:45からの1時間半を高学年プログラムとして展開した。また2日目は親子プログラムとして、子どもだけでなく保護者も一緒に参加できるように企画・運営を行った。参加者は53名（定員60名）であった。

## 2. 担当部局

本イベントは東海学園大学スポーツ健康科学部井澤悠樹ゼミに所属する3年生12名、4年生12名、計24名が参画した。

また、みよし市立黒笹小学校・三好丘小学校・北部小学校の各教頭先生のご指導、ご協力を賜った。



学生（広報担当）が作成した募集要項（チラシ）

### 3. 所見・成果

#### <所見>

当日の3日間は大きな問題も無く、滞りなくイベントを終えることができた。はじめは緊張していた学生も参加者との関わりの中で「いかに楽しんでもらうか」を試行錯誤し臨機応変な対応が見られ、共に楽しむ姿勢が見られた。また、積極的に参加者や保護者とのコミュニケーションを図ろうとする姿や、学生が相互にサポートする姿も見られ、全員でイベント成功を目指す姿勢が確認できた。

#### <成果>

本イベント参加者(保護者)を対象とした事後アンケート調査の結果では、「楽しく参加できました。」といった記述のほか、「毎年リーダー(学生)と会うのを楽しみにしています。これからも続けてもらえるとありがたいです。」や「毎年、ニコニコスポーツを楽しみにしています。卒業したリーダーに会えることも(本人にとっては)楽しみの1つようです。」など、本イベントがリピーターにとっても有意義な場になりつつあることが確認できた。また、「1人1人がよく周りを見て下さり、子ども達を楽しませてくれていました。初めての参加でしたが、素敵な学校だと知ることができました。」といった記述が見られたことから、本イベントが単なる地域貢献活動に終始するのではなく、大学イメージの改善・向上にも寄与できていることが確認できた。

学生の評価票からは、指導者・支援者としてのスキルのみならず、指導者や支援者が活躍する場をいかに創り出すかといった「自身が活躍する場を自身で創り出す」重要性に気づくことができた旨の記述が散見された。この点は、指導者養成を根幹に添える本学部にとってはウィークポイントであることから、本イベントを通して学生自身が気付けたことは重要な学びであったと考えられる。

また、部活動以外での学年を越えた関わりを持てたことは本人たちにとっては大きな収穫であったようで、イベント終了後も3年生と4年生のコミュニケーションが多く見られた。加えて、地域の方との関わりを持ったことによって、普段の学生生活においても「地域からみられている自分」を意識するようになり、大学の外での行動(例えば、駅からキャンパスの間など)においても責任ある行動を心掛けるようになった旨の記述も見られた。



イベント当日の様子



イベント当日の様子



イベント当日の様子



イベント当日の様子

# マックスバリュ東海（株）および中日本フード（株）との 「秋の野菜まんぷく弁当」共同開発

## 1. 目的・概要

本学部では、地域の健康・栄養課題の改善に向けた研究活動や啓発活動を数多く行っている。その一つとして長幡ゼミでは、地域住民の野菜摂取量を増加させるための取り組みを行っている。近年、47都道府県の中で愛知県は、野菜摂取量の少ない状況が続いている。そこで、野菜摂取量を増加させるための食環境整備を目的とし、マックスバリュ東海株式会社（本社：静岡県浜松市）および中日本フード株式会社（本社：大阪府大阪市）と共同で野菜を多く摂取できる健康弁当を開発、販売した。

（協定書：無し、委託金：有り）

## 2. 担当部局

長幡友実 東海学園大学健康栄養学部・准教授

長幡ゼミ学生 4年生3名

## 3. 所見・成果

弁当開発は、平成31年3月の企業との打ち合わせから始まった。まず、弁当販売のターゲットを主婦層と高齢者層に決め、弁当の条件として栄養バランスを良くする（たんぱく質とビタミン類が十分摂取できる）こと、極力薄味にすること、彩りを良くすること等、弁当のコンセプトを定めた。

その後、学生達は学内で何度も試作を行い、メニュー開発を行った。試作した料理は学部内の学生に試食してもらい、出された意見をまとめてメニューの改善点を抽出した。そして改善点を次の試作に反映させるという過程を繰り返した。

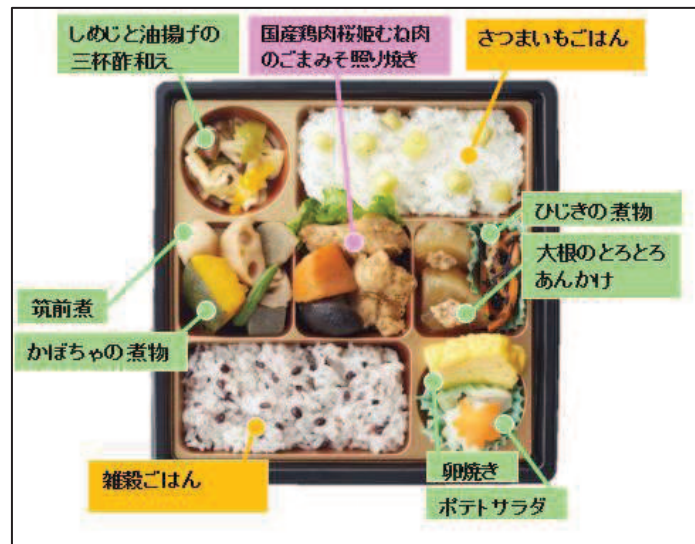


企業との打ち合わせの様子



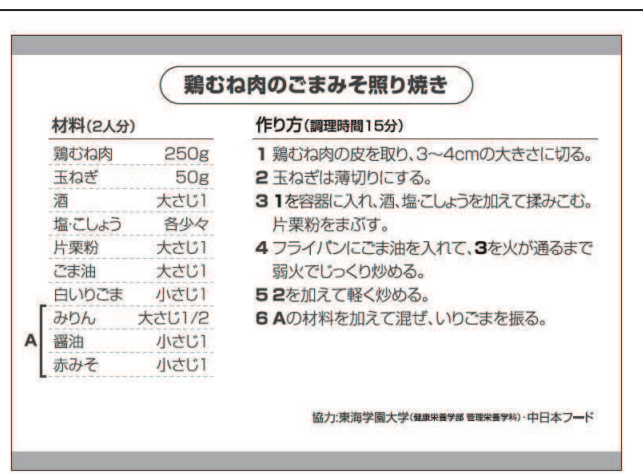
学内でのメニュー開発の様子

おおよそ弁当に採用するメニューが決まったところで、容器の検討も行った。学生達は、同じメニューでも容器の違いで見栄えが異なることを実感し、弁当開発の難しさを学んだようである。完成した弁当は企業の方々に食べていただき、自分達が考案した弁当に込める想いを伝え、その後、マックスバリュ東海株式会社の工場において、学生が考案した弁当を再現して製作する工程が重ねられた。その過程において、学生達が見た目や味の確認を数回行った。そして、令和元年9月中旬、約6ヵ月かけて検討を重ねて企業と共同開発した弁当が完成した。弁当の名前は、「秋の野菜まんぷく弁当」に決まった。



完成した「秋の野菜まんぷく弁当」

完成した弁当は、令和元年10月19日（土）～21日（月）の3日間、愛知、岐阜、三重、滋賀のマックスバリュ全96店舗において合計4,465食が販売された。10月20日（日）には、マックスバリュグランド千種若宮大通店にて、開発に携わった学生が試食販売も行った。弁当の主菜である「鶏むね肉のごまみそ照り焼き」のレシピの配布も行った。学生達にとっては、大学で学んだ知識・技術を活かして企業と連携した弁当開発と地域住民への販売が体験でき、貴重な機会となった。



開発した弁当の主菜「鶏むね肉のごまみそ照り焼き」のレシピ



販売された弁当の陳列風景



店舗での学生達の試食販売

# 〈子ども栄養コース講座〉

## 幼児食講座～しっかり噛んで食べるために～

### 1. 目的・概要

このイベントは、東海学園大学健康栄養学部と天白保健センターとの協働で行った地域住民を対象とした食育料理教室である。地域食育連携協働事業であり、健康栄養プラザの子どもを対象とした特別講座として位置づけ開催された。地域食育連携協働事業は、「名古屋市食育推進計画」に基づき、保健所と地域において食育に取り組む団体、企業、大学等と連携し、協働による食育講習会を実施することで、地域における食育活動の活性化を推進し、市民の食育に関する意識の向上をめざすことを目的とするもので、2019年度は東海学園大学健康栄養学部が連携団体として事業に関わった。

学部としての活動目的は、地域貢献と、学生が実践を通して食育活動について深く学ぶことである。企画から教室実施までの体験や、参加者(親子)との交流を通して、対象者に応じた食育支援のあり方を学ぶ機会となっている。また、区の保健センターと協働で行うイベントであるため、学生が現場の管理栄養士の指導方法や実践について学ぶこともできる。

具体的な活動としては、まず、保健センターと教室のテーマについて検討し、幼児期の食の問題である「噛むこと」を取り上げ、教室テーマを「幼児食講座 - しっかり噛むために」とすることにした。次に教室案内のチラシを作成し、保健センターと協力して多方面に働きかけて参加者を募った。学生は、主に実習で調理するレシピの作成から教室時の実習補助を行った。

食育料理教室は、令和元年9月21日(土)に、東海学園大学の調理実習室で行った。一部は「幼児期の食事(3-4歳頃)-しっかり噛んで上手に自分で食べるために」と題した保健センター管理栄養士による講話、二部はよく噛むことに配慮した料理実習と試食を行った。参加者は大人13名、2-4歳児11名とその家族(大人4名、0-1歳児5名)、運営スタッフは、学生、本学教員、保健センター管理栄養士、本学卒業生の計13名であった。

(協定書：無／委託金：無)

### 2. 担当部局

教員 中出 美代 東海学園大学健康栄養学部 教授

杉山 由香 東海学園大学健康栄養学部 助手

浅井 美智 東海学園大学健康栄養学部 助手

学生 東海学園大学健康栄養学部生 7名

共催者 天白保健センター管理栄養士 2名

協力者 山田有里(株)ヘルスケアレストラン管理栄養士(東海学園大学健康栄養学部卒業生)

### 3. 所見・成果

一部の、大野管理栄養士(天白保健センター)の講話では、子どもにとって噛むことの大切さと食べさせ方の工夫点について学んだ。親子での参加であったが、皆さん真剣に受講し、講話後には活発な質疑応答も行われた。二部の実習は、学部教員による献立説明の後、「小松菜とじゃこのおにぎり」「鶏つくねのきのこあんかけ」「トマトとみかんのサラダ」「けんちん汁」の調理を行った。調理する品数が多いため、デザート「野菜スティック」「焼きりんご」はスタッフが調理し、試食のみとした。これらのメニューは、学生が試作を繰り返して完成させた、子どもが「かじりとり」をしっかりできるように工夫されたメニューで、子どもの偏食の上位である野菜を食べさせる工夫もされている。実習中は、学生も

各グループに加わり、調理補助を行った。調理後の、親子、付き添いの家族全員での試食会では、子どもたちが、いつも以上に野菜をしっかりと食べ、ほぼ完食で、家でも作ってみたいとのコメントが多く、大盛況であった。

教室を通して、学生は教室の企画・運営や、教室参加者とのコミュニケーションなどから、健康や栄養について地域の方々に伝えることの意義や難しさを経験することができ、食育活動による地域貢献を体験する良い機会となったと考えられる。



企画から当日の運営まで担当した健康栄養学部の学生たち



参加者募集チラシ



保健センター大野管理栄養士による講話



料理実習の様子。



学生も同じテーブルにつき、試食。



土産は「吹き戻し」と学生製作の「しょくいくかるた」。



# 天白区クリーンウォーキング

## 1. 目的・概要

名古屋市では毎年6月第1土曜日を「環境デーなごや」としており、2019年度も6月1日に「全市一斉クリーンキャンペーン」が開催された。名古屋キャンパス所在の天白区では、植田南学区において「クリーンウォーキング（地域清掃）」が実施され、名古屋キャンパスの有志学生が参加した。天白区内企業他7団体、天白区民、総勢300名を超える方々と交流を通して地域の清掃活動を行った。

## 2. 担当部局

東海学園大学名古屋キャンパス学生支援課

東海学園大学名古屋キャンパスクラブ連合会 参加学生数；18名

## 3. 所見・成果

毎年、参加している「クリーンウォーキング」だが、2019年度はいつになく多くの学生が協力してくれることとなった。

地下鉄原駅をスタートし、植田駅までの約1キロを、トンゴとゴミ袋を手にゴミ拾いを行った。車の通りが多くゴミが落ちているイメージがあまりなかったが、車道の隅や歩道の端・植え込み付近には、思いのほか様々なゴミが落ちていた。ペットボトル・空き缶、お菓子の袋、レジ袋などに押し込んであるゴミもあり、トンゴで拾いビニール袋に入れながらクリーンウォーキングを楽しんでいた。煙草の吸い殻も多く、また噛んだ後のガムがはりついている箇所もあり、トンゴの先で剥がしながらの清掃となった。夏のような晴天に恵まれ、汗だくになりながら、予定以上の時間をかけ、植田駅にゴールした。

参加した学生は、ゴールに集まったゴミやペットボトルの多さに驚き、自分たちもゴミのポイ捨てをしていないかお互いに反省しあっていた。ゴミを拾い、清掃するイベントに参加したというだけでなく、学生自身がゴミ減少について考える機会にもなった。これまではクラブ・サークル活動に参加している学生に参加協力を依頼していたが、ひとりでも多くの学生が参加するよう呼びかけを工夫し、ゴミ減少の意識を高めていきたい。





# 三好ともいきスポーツクラブ「ともいき体操くらぶ」

## 1. 目的・概要

ともいき体操くらぶは 2015 年 8 月に夏休み短期教室として実施された、運動チャレンジ教室①～苦手な体操を克服しよう！～を前身とし、2016 年 6 月総合型地域スポーツクラブ「三好ともいきスポーツクラブ」の設立を受け、8 月に 2 回目の運動チャレンジ教室を開催し、10 月より「ともいき体操くらぶ」として活動を行っている。当初は小学校の体育の授業で、鉄棒の「逆上がり」やとび箱の「開脚跳び」、マット運動の「後転」「側転」などの器械運動が苦手な子どもを対象として始まったが、2017 年度からは「三好ともいきスポーツクラブ」が主催する「ともいき体操くらぶ」として鉄棒やとび箱、マット運動などを練習する小学生向けの通年プログラムとなった。現在、4 年目を迎えたともいき体操くらぶは、初年度から継続して通う子どももおり、小学校 1 年生から小学校 6 年生までの 30 名を超える（4 月から 9 月：33 名、10 月から 3 月：32 名）子どもたちが活動している。器械運動を初めて習う子どもから、体操競技の基礎的な技術にチャレンジする子どもまで、幅広いレベルの子どもたちがそれぞれのレベルにあった課題に取り組んでいる。

指導は本学スポーツ健康科学部教授 岡本、非常勤講師の田口、青山、本学卒業生で現在、名古屋市教員の齋場が中心となって指導している。また、スポーツ健康科学部の学生が指導補助員として参加しており、これまでの合計人数は 150 名を超えている。そして教室の前後では、齋場先生が中心となって、事前ミーティング、反省会を行い学生の実践指導の場となっている。さらに子どもの指導方法や補助法の指導研修会や学生自身の器械運動の練習会なども随時開催し、学生の実践指導の経験の場として、スポーツ健康科学部の学生の良い学びの場となっている。

## 2. 担当部局

教 員 岡本 敦 東海学園大学スポーツ健康科学部 教授  
田口 由香 東海学園大学スポーツ健康科学部 非常勤講師  
青山 有理 東海学園大学スポーツ健康科学部 非常勤講師  
齋場 由希 東海学園大学人間健康学部卒業生（現、名古屋市教員） ほか  
補助学生 東海学園大学スポーツ健康科学部 2 年生から 4 年生の男女 15 名



## 3. 所見・成果

当初、運動チャレンジ教室①～苦手な体操を克服しよう！～として教室を始めたこともあり、鉄棒で逆上がりが出来ない子や、跳び箱の開脚跳びができない子など、どちらかという運動を苦手とする子どもが多く集まった印象でした。しかし、ともいき体操くらぶとして 4 年が経過し、継続して練習する子どもたちも増加し、体操競技としての技術レベルも年々向上してきました。本教室に小学校低学年で通い始めたときは、とても怖がり鉄棒の逆上がりや跳び箱の開脚跳びが出来なかった子が、高学年になる



		回数	参加者	補助学生
2016年度	10月～12月	8	14	7
	1月～3月	8	22	9
2017年度	4月～6月	6	11	9
	7月～9月	8	15	11
	10月～12月	8	31	14
	1月～3月	8	30	10
2018年度	4月～9月	18	27	16
	10月～3月	18	23	18
2019年度	4月～9月	18	33	15
	10月～3月	14	32	15
	計	114	238	124

表 開講回数、参加者数、補助学生数

と体育の時間にみんなの前で側転の見本をやったなどと話してくれ、積極的に練習するようになった子もいます。このような子どもたちの上達を目にすることができるのはともいき体操くらぶの成果として嬉しい限りです。そして学校体育としての器械運動から徐々に、体操競技的な技術に挑戦する子も現れてきました。それに伴って教室の人数も多くなりました。現在は、子どもの多様なレベルに対応するために6班に分かれ、各自のレベルにあった課題で練習しています。

現在、小学校1年生から小学校6年生までの子どもたちが活動していますが、次年度以降、現在の小学生が中学生になっても継続して活動できるようになると、さらに体操クラブとして発展できると思われます。また、指導補助員として参加している本学スポーツ健康科学部学生は、スポーツ健康科学部と玉川大学通信教育学部との連携による小学校教員養成プログラムの履修生を中心に組織されており、実際に小学校の児童を指導し現職の小学校の教員からアドバイスをもらえる実践の場として学生にとっても貴重な学習の場となっていると思います。すでにこの教室を経験して本学を卒業し、教職に就いた学生も多数出ており、保健体育の教員や小学校の教員を目指す学生の実践の場として、ますますの発展を期待しています。

#### 4. おわりに

ともいき体操くらぶとして発足して4年が経過し、更なる飛躍を目指しているところで、新型コロナウイルスの影響で、2020年3月より教室が閉講となってしまいました。今後、感染予防の対策を取りながら、最大限安全に配慮しつつ可能なところから教室を再開してきたいと思います。今後は、ともいき体操くらぶの活動を通して、少しでも器械運動・体操競技を好きな子どもが増え、みよし市の器械運動・体操競技の練習拠点として東海学園大学が協力・発展できればと考えています。ともいき体操くらぶ出身の体操選手や体育の先生が活躍する日を心待ちにしています。

【 全学共通教育機構 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数 (学生数)	種別
1	【中津川市との包括協定】 「地域社会と共生」 ～『令和ともいきの森』づくり～	<p>「環境教育を進めながら、地域活性化に寄与できる人材育成」を目指し、本学と岐阜県中津川市が包括連携協定を締結した。</p> <p>その一環として、「地域社会と共生」の科目で環境について学びつつ、人間力を養う実践活動として中津川市加子母地区において植樹活動を行い、東海学園大学『令和ともいきの森』づくりを通して新しい「環境文化」を創造する教育を実施した。</p> <p>また、本植樹活動は、加子母小学校の児童とともに行うと同時に、同校を訪れて児童と森で集めた枝や毛糸を使った造形作品を制作した。森づくりや地域との交流を通して、自然や環境の深い関わりを学び、人間力を養うとともに、「共生」の精神が地域社会の活性化に寄与できることを学んだ。</p>	2019.9.3～5	岐阜県中津川市加子母	(26)	協定

## 【 経営学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数 学生数)	種別
1	【みよし市との包括協定】 「名古屋グランパスエイト」との名鉄三好ヶ丘駅におけるJ1成績ボードの設置・運営	「名古屋グランパスエイト」と連携し、名鉄・三好ヶ丘駅におけるJ1成績情報boardの設置・運営を実施した。	2019.4.1～ 2020.3.31	みよし市教育委員会 名古屋グランパスエイトクラブハウス 三好キャンパス	(16)	共催
2	【みよし市との包括協定】 「(株)夢たまご」とのみよし市における新名物お菓子の開発とプロモーション	みよしの鶏卵業者「(株)夢たまご」と、同社の卵を使った新しいみよしの名産物となる菓子を共同開発した。完成した試作品をオープンキャンパスでも配布してマーケティング調査を行った。同商品のプロモーションについて、マーケティングなどの観点から共同で検討・実施。11月3日～4日に開催された「産業フェスタみよし2019」において販売した。	2019.4.1～ 2020.3.31	夢たまご社 みよし市役所産業課 三好キャンパス	(16)	共催
3	豊田市足助町の観光複合施設「百年草」における総合的集客企画の立案・実施	足助町のホテル・フレンチレストラン・ハム工場・ベーカリー・日帰り入浴からなる観光複合施設において、学生が集客企画を立案し、実際にその企画を実践した。足助町でフィールドワークを行い、地域ならではのサービスや商品開発を、小学生を連れたファミリー層を対象とし、企画立案し、実践した。	足助町でのフィールドワーク 2019.4.25、プレゼンテーション 2019.6.13、百年草にて企画実施2019.8.9～12	百年草 足助町の街並み 三好キャンパス	(16)	共催
4	「スギ製菓(株)」との新商品開発&販売記念イベント	本企画は昨年よりスタートしており、消費者調査を実施した上で、スギ製菓と打合せや試食を繰り返しながら、新商品「野菜」を完成させた。その発売を記念してイベントを実施した。	2019.4.27,28	えびせん家族知立店	(4)	共催
5	「かがやけ☆あいちサステイナ研究所」への学生派遣	愛知県主催のプロジェクト「かがやけ☆あいちサステイナ研究所」へ学生を派遣した。県が連携する企業・団体から提示された環境課題に対して、学生が調査を行い、成果発表会において提案を行った。	2019.6～12	愛知県庁ほか	40 (2)	派遣
6	「キッズサマースクール2019」への学生派遣	子ども向けスポーツイベントにおける運営補助	2019.8.7～8.9	岐阜メモリアルセンター	(3)	派遣
7	大垣市上石津町でのPRイベントの企画・実施	ネット上の情報だけでなく、2019年2月に現地を視察し、地元の方々とコミュニケーションをとりながら、PRイベントを企画した。イベントの広報は、SNSでの情報発信やみよしの小学校へのチラシ配布などにより実施した。イベントには定員以上の応募があり、イベント当日は担当家族に寄り添いながら、イベントを進行していった。参加家族へのアンケート結果は大変好評であった。	2019.11.3,4	大垣市上石津地域	70 (18)	共催
8	【みよし市との包括協定】 みよし市市制10周年記念グランパスガチャガチャの企画・設置	みよしの市制10周年を記念して、「イオン三好店」にガチャガチャを2020年7月に設置する。グランパスのマスコットなどを使った企画として学生がデザインを行い、2月に市役所よりプレスリリースした。	2020.2	みよし市役所 三好キャンパス	(16)	共催

## 【 人文学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数) (学生数)	種別
1	【みよし市との包括協定】 コミュニティFM「みよしコミュニティ ニュース」	「エフエムとよた」の番組「モミアゲラジ オ」(毎週土曜日午後3:00~6:00放送) 内で「みよしコミュニティニュース」(放送 時間午後3:50~4:00)のコーナーを武 市ゼミの3.4年生が担当。学生が市内イ ベントをインタビュー取材し、レポーター として地域情報を発信する。2013年11 月末より行っている。	毎週土曜日 (継続)	みよし市 カリヨンハウス	(20)	共催
2	【天白区との包括協定】 天白カルタプロジェクト	天白区役所企画経理室の協力のもと、 天白区の魅力を写真と言葉で伝える フォトカルタを武市ゼミの3年生が2018 年度に制作。2019年度はカルタを製品 化し、高齢者向け地域サロンでカルタ 大会を開催した。完成したフォトカルタ は区役所にて区民に貸し出し。	2019.4~2020.2	天白区役所、 天白区福祉協 議会	(11)	共催
3	【天白区との包括協定】 HUG(避難所運営ゲーム)の実施	防災ゲームHUGは、防災意識を高め、 災害発生時には避難所運営のスタッフ として貢献できることを目指すものであ る。天白区は防災教育の一環として、 今年度からの3年間で区内全中学校で の実施を計画しており、本学学生にファ シリテーターとしての参加が依頼され、 天白区役所総務課防災担当の協力の 下、3年生23名が協力参加して1年生全 員が体験した。 2019年度は3校で実施を計画。11月7 日、大橋・齋藤両准教授と3年生6名が 平針南中学校での実施に協力。心理学 部教員・学生の協力を得て実施が予定 されていた3月9日平針中学校、16日御 幸山中学校での実施は新型コロナの影響 で中止となった。	①2019.5.11体 験会 ②2019.11.7 ③2020.3.9 ④2020.3.16  ③・④はコロナ 関連で中止	①名古屋キャン パス233教室 ②平針南中学 校 ③平針中学校 ④御幸山中学 校	①154 (143) ②(6)	①主催 ②③④ 協力
4	犬山市立図書館古典籍調査	平成30年度から継続していた犬山市立 図書館の古典籍調査の最終回を実施 し、完了した。引き続き、古典籍目録の 作成と同館における展示企画を進め る。	2019.5.14	犬山市立図書 館	6 (4)	主催

【 心理学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数 (学生数)	種別
1	【天白区との包括協定】 HUG(避難所運営ゲーム)の実施	<p>防災ゲームHUGは、防災意識を高め、災害発生時には避難所運営のスタッフとして貢献できることを目指すものである。天白区は防災教育の一環として、今年度からの3年間で区内全中学校での実施を計画しており、本学学生にファシリテーターとしての参加が依頼があり、防災ボランティアとして人文学部とともに協力することとした。</p> <p>2019年度は3校での実施計画のうち心理学部は、人文学部教員・学生ともに3月9日平針中学校5名、16日御幸山中学校2名がそれぞれ参加予定だったがいずれも新型コロナの影響で中止となった。</p>	<p>①2019.12.3学生向け事前講習会 ②2020.3.9 ③2020.3.16</p> <p>②・③はコロナ関連で中止</p>	<p>①名古屋キャンパス420教室 ②平針中学校 ③御幸山中学校</p>	①(6)	<p>①主催 ②③協力</p>



## 【 教育学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数 学生数)	種別
1	健康診断ボランティア	各学校の健康診断のうち、歯科検診、内科検診、耳鼻科検診などの主に記録係としてサポートを実施した。	2019.4～6	愛知淑徳中学・高校、南山大学附属小学校、名古屋市立小・中・高等学校など40校	(延70)	協力
2	玉ねぎ取り	近隣のあおぞら保育園の園児19名及び保育士3名が来学し、本学3年生24名及び教員5名と一緒に、たまねぎを収穫した。	2019.6.4	名古屋キャンパス	子19、保育士3、教員5、(24)	主催
3	【名古屋市教育委員会委託事業】 名古屋土曜学習プログラム 「造形表現体験学習」	自然素材である「枝」に、様々なひもを巻きつけ立体作品を制作した。身の回りにある何気ない素材が、造形活動を通し、アートという表現に生まれかわることを体験した。	①2019.6.8 ②2019.10.26	①植田南小学校 ②極楽小学校	①70(6) ②36(6)	委託
4	スマイルデー名古屋2019	若者たちに少しでも笑ってもらおうと名古屋市が主催するイベント。若者に人気の歌手や芸能人のステージの他、悩み相談に関連する団体が、当日展示ブースを出して若者たちに呼びかける。本学学生は、名古屋いのちの電話のサポーターとして参加し、主にききとり調査を担当した。	2019.7.31	オアシス21	約2500 (9)	協力
5	碧南市藤井達吉現代美術館 夏休みワークショップ 「枝とひものまきまき造形」	小学生対象の造形ワークショップ。枝とひもをつかった造形。午前中は個人作品制作。午後からは共同制作による空間表現。ボランティア学生数名参加予定だったが当日参加学生は0名であった。	2019.8.3	碧南市藤井達吉現代美術館	(0)	協力
6	碧南市藤井達吉現代美術館 親子ワークショップ 「親子でまきまき造形あそび」	3歳の幼児～小学2年生の子どもとその保護者対象の造形ワークショップ。枝とひもをつかった造形。	2019.8.4	碧南市藤井達吉現代美術館	(2)	協力
7	朝日村造形ワークショップ 「朝日の自然から生まれる枝と糸のまきまきアート」	朝日村で枝素材を収集し、朝日村中央公民館で、朝日村の子ども108名、大人9名と本学生10名で造形ワークショップを実施。	2019.8.6	長野県朝日村中央公民館(学外)	(10)	共催
8	どまつり2019	「にっぽんど真ん中祭り」通称「どまつり」全国のよさこいなど舞踊団体が名古屋市の中心部に集まり、朝から踊りを披露する。真夏の暑い時期の開催であるため熱中症の患者や外傷患者が参加者及び観客から多数発生する。イベント期間中の救護活動をサポートした。	2019.8.22～25	久屋大通り、名古屋駅、セントラルパークなど	ダンサー23000、延200万 (3)	協力
9	さつまいも掘り	近隣の保育園児が本学の農園へきて、学生とともにさつまいも掘りを行った。6月1日に今まで花や玉ねぎが栽培されていたところを耕し、6月4日専門演習の授業で学生がさつまいも苗を植えた。それが無事実を付けたので、3～5歳クラスの保育園児32名を本学に呼び、学生といっしょにさつまいもを掘った。収穫量は8月下旬から9月上旬の長雨の影響で、例年の3分の1程度だったが、いつものように保育園の給食の材料となった。	2019.10.23	名古屋キャンパス農園	(18)	主催

【 教育学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数) (学生数)	種別
10	名古屋城バディウォーク	イベント活動を通してダウン症の子供たちとふれあいながら、その支援について理解する。	2019.10.27	名古屋城二之丸広場	約 4,000 (11)	協力
11	第40回豊田マラソン	豊田マラソンの救護を担当する。AEDを持参してコース上うい自転車で巡回したり、フィニッシュエリア救護所での受付を担当した。 心肺停止事案はなかったが、重症傷病者を学生発見しドクターカー到着まで対応し救急搬送した事案があった。 豊田市消防本部や豊田記念病院の医療スタッフと共に活動した。	2019.11.17	豊田スタジアム	約 12,000 、運営 スタッフ 800 (20)	協力
12	第51回おかざきマラソン	岡崎マラソンの救護を担当する。コース上いよびフィニッシュエリアでAEDを持参して待機し、傷病者の応急救護を医師の指示のもと実施した。 心肺停止事案1例発生、定点1に待機していた学生のAEDが救命に役立った。 岡崎市民病院救命センターの医師看護師、岡崎消防本部の救急隊員と活動した。	2019.11.24	岡崎中央総合公園	約 5,000 (20)	協力
13	マラソンフェスティバルナゴヤ・愛知2020(名古屋ウィメンズマラソン)の準備	名古屋ウィメンズマラソン、名古屋シティマラソン総勢37000人の医療救護における事前準備、新型コロナ感染拡大防止のためエリートのみ参加体制の準備に参加した。	2020.2 2020.3 事前準備のみ (延40人)	医療統括本部、説明会会場	160名 参加予定だったが中止	協力

## 【 スポーツ健康科学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(学 生 数) 参加 人数	種別
1	【名古屋市教育委員会委託事業】 名古屋土曜学習プログラム 「ニュースポーツ体験学習」	小学1年生から6年生を対象に、ニュースポーツの体験学習を展開。ゼミ学生が主体となって、プログラムを展開。	①2019.5.18 ②2019.6.15	①極楽小学校 ②植田南小学校	①44(23) ②61(16)	委託
2	【みよし市との包括協定】 みんなでつくりよう！ニコニコスポーツ2019	近隣小学校(黒笹用学校・三好丘小学校・北部小学校)の児童を対象とした、夏休み3日間のスポーツ・レクリエーションプログラム。3年生・4年生のゼミ学生が合同で、プログラム内容の企画や実際の指導・広報活動・渉外など、企画・運営・評価を自身の手で行う教育実践活動。	2019.8.17～19	みよし市立黒笹小学校	80 (25)	主催
3	【みよし市との包括協定】 三好特別支援学校 小学部体育授業支援ダンス交流	本学部の教員志望の学生(田中望ゼミ)と三好特別支援学校小学部4年生がリズムダンスを通して交流した。3コースの所属学生が協働してプログラムを考案し、それを指導すること、PDCAサイクルで指導改善を行うことにより、学校教育における指導の実際を実践的に学ぶ場となった。児童にとっては個別指導により、身体を動かすことの楽しさや人と触れ合うことの喜びを味わう機会となった。	2019.9.24 2019.10.29 2019.11.19 2019.12.17 2020.1.14	三好特別支援学校	(13)	協力
4	長野県阿知村公民館スポーツ講習会「ランニング教室」	ランニング教室・測定	①2019.9.27 ②2019.11.1	①② 長野県阿知村	①(2) ②(2)	協力
5	ニュースポーツフェスティバル 2019 ティーボール体験	ティーボール体験企画の指導補助	2019.11.17	愛・地球博記念公園(モリコロパーク)	(2)	協力
6	第15回愛知県ティーボール大会 メディカルサポート	大会運営の補助および大会中に発生したケガに対する応急手当の補助	2019.11.29～30	愛・地球博記念公園(モリコロパーク)	(2)	協力
7	【みよし市との包括協定】 みよし市立中部小学校への学校 支援ボランティア(マラソン大会運 営補助)の派遣	マラソン大会の伴走・運営補助	2019.12.4	保田ヶ池遊歩道	(7)	協力
8	「走って、投げて、体験して学ぶ オリンピック・パラリンピック」 (共催:三好ともいきスポーツクラブ)	子どもたちへの運動指導	2019.12.7	三好キャンパス	(9)	共催
9	【みよし市との包括協定】 みよし市立黒笹小学校への学校 支援ボランティア(マラソン大会運 営補助)の派遣	マラソン大会の伴走・運営補助	2019.12.10	黒笹小学校および黒笹グラウンド	(15)	協力
10	日本オリンピック・アカデミー 第7回ユースセッション	中高校生が学校教育だけでは得ることのできないオリンピズムの価値に触れる機会として、スポーツや文化的活動等の実践による体験と参加者相互の交流を通じてオリンピックの理念を体感し、知的理解を深めるための合宿型(2泊3日)オリンピック教育に参加協力した。	2019.12.25～27	中京大学	(7)	協力
11	「名古屋ウィメンズホイールチェア マラソン2020」ボランティアスタッフ 事前研修会	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2020」ボランティアスタッフ事前研修会として、外部講師(名古屋市出身のパラリンピアン田中照代選手)を招聘し、講義および実技研修会を実施した。	2020.2.13	三好キャンパス	(17)	主催
12	「名古屋ウィメンズホイールチェア マラソン2020」ボランティアスタッフ 派遣	「名古屋ウィメンズホイールチェアマラソン2020」への学生ボランティアの派遣 業務内容:出場選手のサポート、運営補助	2020.3.8	ナゴヤドーム、瑞穂陸上競技場、他	(16)	協力

## 【 健康栄養学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数 学生数)	種別
1	【名古屋市農業センターとの協定】 「健康・野菜イベント」	5月3日(金・祝)～6日(月・祝)開催の名古屋市農業センターGWフェアにおいて、骨密度測定、野菜クイズと紙芝居の上演、災害食と簡単野菜料理の試食を行った。	2019.5.5	名古屋市農業センター	300 (25)	協力
2	【名古屋市農業センターとの協定】 名古屋市農業センター食農体験教室「五平餅作り体験」	名古屋市農業センター主催の食農体験教室(全11講座)の中の1講座として、「五平餅作り体験」を行った。本講座は名古屋市農業センターから依頼を受け、長幡ゼミの活動の一環として実施したものである。	2019.8.6	名古屋市農業センター	30 (7)	協力
3	社会福祉法人「地域福祉コミュニティほほえみ」納涼祭	天白区平針南の「地域福祉コミュニティほほえみ」の入所者ならびにそのご家族を対象として、納涼祭の健康チェックコーナーで骨密度測定とアドバイス、カルシウムやビタミンDなどの栄養素の関わりを紹介した。	2019.8.24	地域福祉コミュニティほほえみ	(3)	協力
4	「魚国総本社」産学連携プロジェクト	「魚国総本社名古屋本部」と連携し、小池ゼミ、徳永ゼミ、古橋ゼミで商品開発を行っている。9月に23名が献立を提出し、13メニューが採用された。3月3日に採用メニューについての交流会を開催した。魚国総本社からは2事業所の店長、管理栄養士を含め計8名、本学学生8名が参加し販売に向けたメニュー修正点について説明を受けた。	2019.9～2020.3	魚国総本社名古屋本部 名古屋キャンパス4号館414臨床栄養実習室 他	(24)	共同開発
5	「マックスバリュ東海(株)」、「中日本フード(株)」とのコラボ弁当「秋の野菜まんぷく弁当」の開発と販売	長幡ゼミが「マックスバリュ東海(株)」、「中日本フード(株)」と共同開発した健康弁当「秋の野菜まんぷく弁当」を、愛知、岐阜、三重、滋賀県のマックスバリュ96店舗で10月19日(土)～21日(月)の3日間限定で販売した。10月20日(日)には、開発に携わった学生3名が「マックスバリュグランド千種若宮大通店」にて試食販売を行った。	2019.10.19～21	愛知、岐阜、三重、滋賀県のマックスバリュ96店舗	(3)	共同開発
6	【名古屋市農業センターとの協定】 名古屋市農業センターまつり「健康&野菜イベント」	名古屋市農業センターが11月2日(土)～4日(月・祝)に開催する「農業センターまつり」において、成人向けに健康チェック(骨密度測定、足指筋力測定)、子ども向けにペーパークラフトで野菜づくり、野菜クイズ、食育紙芝居の上演を実施した。延べ約200名の来場者があった。	2019.11.2	名古屋市農業センター	延200 (20)	協力
7	愛知県教育委員会主催 「あいちの味覚たっぷり！わが家の愛であ朝ごはんコンテスト」	地元の食材や郷土料理を取り入れながら「アイデア朝ごはん」の献立作りや調理を通し、家族の絆を深めることを目的に、毎年開催される愛知県教育委員会主催のコンテストである。本選に残った小学生10名が当日調理を行い、審査が行われた。本学は共催として会場提供し、健康栄養学部の学生が当日の運営と小学生の調理補助に協力した。	2019.11.17	名古屋キャンパス4号館1階および3号館311教室	40 (10)	協力

## 【 健康栄養学部 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数 学生数)	種別
8	【天白区との包括協定】 みんなの元気フェスタinてんぱく	天白区役所講堂での「高齢者の食と健康の〇×クイズ」や高齢者の栄養関係の展示をした。天白保健センターでの骨密度測定、運動機能分析装置ザリッツでの脚の筋力とバランス測定、ヘモグロビン測定を行った。天白区や名古屋市のマスコットキャラクターに学生が着ぐるみを行い、撮影会にも協力をした。会場内のコンシェルジュの協力をした。	2019.11.24	天白区役所講堂・天白保健所	(26)	協力
9	天白区役所と名古屋市農業センターの共催イベント「八事五寸にんじん講座」	天白区役所と名古屋市農業センターの共催イベントである、令和元年度 八事五寸にんじん講座「育てて味わう！まるごと八事五寸にんじん体験教室」(全2回)のうちの後半1回を、長幡ゼミで担当した。八事五寸にんじんを使ったお勧めレシピを調理実習し、学生が調理補助をした。	2019.12.22	名古屋市農業センター	40 (10)	協力
10	名給フードネットワーク 2020展示会	食品卸の株式会社名給が主催し食品メーカー120社が展示を行う展示会において、「大学生コラボコーナー」への出店した。	2020.3.25	名古屋国際会議場	(9)	協力

## 【 図書館 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数 学生数)	種別
1	【みよし市・天白区との包括協定】 図書館開放	①天白区民対象(名古屋図書館) ②みよし市民対象(三好図書館) ③公開講座受講生対象(両図書館) ④三好ともいきスポーツクラブ(三好図書館) ⑤在学生の保護者(両図書館) ⑥近隣の中学・高校生(両図書館) ⑦卒業生(両図書館)	2019.4.1～ 2020.3.31	東海学園大学 図書館	①67 ②19 ③ 三0 名7 ④0 ⑤1 ⑥1 ⑦13	主催

【 共生文化研究所 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	参加人数 (学生数)	種別
1	「第7回浄土宗宗門関係大学 社会連携企画報告会」への参加	京都文教大学・短期大学キャンパス内 にて開催された「ともいきフェスティバル 2019」で、南雲智映(経営学部准教授) ゼミ生が「戦略・シュミレーション研究 会」のブースを出展した。	2019.12.14	京都文教大学	6 (4)	協力

## 【 健康開発支援センター 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(学生数) 参加人数	種別
1	名古屋健康運動倶楽部	中高齢者向け運動教室 講師:東郷町施設サービス(株)	2019.4~2020.3 毎週金曜 1部 9:10~10:10 2部 10:30~11:30  コロナ関連で 2020.2.28~休 止	名古屋キャンパス	延1172	主催
2	【名古屋市委託事業】 なごや健康カレッジ「健康学ノススメ2019」	学生参加型の中高年齢者向け健康づくり教室 講師: 島岡清(スポーツ健康科学部客員教授)、 丸山裕司(スポーツ健康科学部准教授)、 梶岡多恵子(教育学部教授) 他	2019.9.26~ 12.19 全12回	名古屋キャンパス 天白公園	31 (12) 延345 (延85)	委託
3	【大桑村との委託契約】 大桑村健康運動教室	①ポールウォーキング ②バランス運動 ③肩こり・腰痛体操 ④バランス運動 ⑤肩こり・腰痛体操 ⑥ポールウォーキング 講師: ①②④⑥島岡清(スポーツ健康科学部客員 教授) ③⑤丸山裕司(スポーツ健康科学部准教 授)	①2019.5.17 ②2019.6.14 ③2019.7.5 ④2019.9.20 ⑤2019.10.25 ⑥2019.11.15	長野県木曾郡 大桑村体育館 及び須原地区 館	①14 ②13 ③13 ④11 ⑤10 ⑥15	委託
4	運動指導者向け講座 「運動指導のための科学的基礎」	講師: ①小嶋雅代(国立長寿医療研究センターフレ イル研究部長) ②高柳尚貴(健康栄養学部講師) ③尾崎隼朗(スポーツ健康科学部講師)	2020.2.15	名古屋キャンパス	42	主催



## 【 健康栄養プラザ 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数) (学生数)	種別
1	〈本コース講座〉① 動脈硬化の危険因子と病気、その予防	〈講義〉寺島正治(健康栄養学部教授) 〈実習〉山本悦子(フードコーディネーター) ”動脈硬化の危険因子と病気、その予防”、の講義後、”人気のサバ缶でアレンジ! 「血管力」アップ”の調理実習を行った。	2019.4.20	名古屋キャンパス 4号館1階 調理実習室	30 (6)	主催
2	〈本コース講座〉② 貯骨のすすめ～骨粗鬆症予防～	〈講義・実習〉 神戸絹代(健康栄養学部教授) ”貯骨のすすめ～骨粗鬆症予防～”の講義後、”骨を強くする料理”の調理実習を行った。	2019.5.18	名古屋キャンパス 4号館1階 調理実習室	30 (6)	主催
3	〈本コース講座〉③ 筋力アップで寝たきり知らず!	〈講義・実習〉 高柳尚貴(健康栄養学部講師) ”筋力アップで寝たきり知らず!”の講義の後、”フレイル予防のための簡単料理”をテーマに調理実習を行った。	2019.6.5	名古屋キャンパス 4号館1階 調理実習室	30 (6)	主催
4	〈子ども栄養コース講座〉 幼児食講座～しっかり噛んで食べるために～	〈講義〉 大野妙子(天白保健センター 管理栄養士) 〈実習〉中出美代(健康栄養学部教授) 大野先生の講義で、子どもにとって噛むことの大切さと食べさせ方の工夫点についてしっかりと学んだ。中出先生から実習献立の説明の後、みなさん協力しながら賑やかに調理を行った。学生が試作を繰り返し完成させた、子どもが「かじりとり」をしっかりとできるように工夫されたメニューであり、調理後は、試食係のお子さん、付き添いのご家族みんなで試食。家でも作ってみたいとのコメントが多く、大盛況であった。	2019.9.21	名古屋キャンパス 4号館1階 調理実習室	10 (8)	共催
5	〈本コース講座〉④ 腰痛、関節痛について	(講義)鈴木伸幸(名古屋市立大学大学院 医学研究科助教/医師) (実習)鈴木真由子(polatris) 鈴木伸幸先生より、“腰痛 一圧迫骨折と骨粗鬆症を中心に北欧食卓から学ぶこと”の講義をおこなってもらった。講義後、“楽しく、美味しいスウェーデン料理”をテーマに、鈴木真由子先生の調理実習を行った。	2019.10.5	名古屋キャンパス 4号館1階 調理実習室	33 (7)	主催
6	〈本コース講座〉⑤ そば打ちを楽しむ	〈実習〉名古屋そば打ちグループ 講師のデモンストレーションを丁寧な解説とともに見学した。デモンストレーション後、は各班に分かれてそば打ちを体験しました。各班1名ずつ講師の先生に入って頂き、学生ボランティアと受講生に対して手取り足取り教わりながら、そば打ちを行った。	2019.11.30	名古屋キャンパス 4号館1階 調理実習室	20 (6)	主催
7	〈本コース講座〉⑥ 乳酸菌で腸内環境を守ろう	〈講義〉糸舁智(健康栄養学部准教授)、 〈実習〉馬場翔子(フードコーディネーター/管理栄養士) 糸先生より、“乳酸菌で腸内環境を守ろう～腸内細菌の力を引き出す処方箋～”の講義があった。講義後、“乳酸菌を使った健康食”をテーマに、馬場先生の調理実習を行った。	2019.12.14	名古屋キャンパス 4号館1階 調理実習室	25 (6)	主催

## 【 学生支援課 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数 学生数)	種別
1	総合水防訓練に 名古屋市大学生消防団として参加	水害時での迅速・的確な応急対応や災害の知識を身に着け意識啓発することを目的に実施され、機能別消防団の学生団員が参加した。	2019.5.26	八事東小学校	(16)	協力
2	【天白区との包括協定】 天白区クリーンウォーキング	「環境デーなごや」に合わせて天白区で地域を清掃することを目的に実施された催しに、地域住民等300名以上とともに名古屋キャンパス有志学生が参加し、約1kmをウォーキングしながらごみ拾いした。	2019.6.1	地下鉄原駅から植田公園まで	(18)	協力
3	【天白区との包括協定】 天白区民まつり	天白公園で開催の天白区民まつりに、教育学部と健康栄養学部が共同でブースを設け、それぞれ学部教員指導のもと専門性を活かし、子ども向けのあてゲームや骨密度測定などを通して地域住民と交流し、地域貢献した。	2019.10.27	天白公園	教育学部(6) 健康栄養学部(14)	協力
4	愛知県警察天白署キャンペーン活動「運転にチョコッと気をつけて」	愛知県運転免許試験場(天白区平針)で天白警察署の交通安全キャンペーンに学生が協力参加した。バレンタインデー前日に、「チョコッとの注意で事故を防いでね」と書かれたチョコを免許更新で訪れた人たちに渡した。	2020.2.13	愛知県運転免許試験場	(3)	協力
5	「ふれあい食事会」で吹奏楽部が演奏	名古屋キャンパス近くの原コミュニティセンターで開催のこの原学区内の65歳以上で一人暮らしの方を対象とした「ふれあい食事会」(原学区地域福祉推進協議会主催)で吹奏楽部の学生が演奏し、参加者と交流をはかった。	2020.2.21	原コミュニティセンター	(7)	協力

## 【 地域連携課 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(参加人数 学生数)	種別
1		名古屋市立原小学校トワイライトスクール 参加学生をとりまとめ活動支援	放課後毎日実施に随時参加	名古屋市立原小学校	(延78)	協力
2	【天白区との包括協定】 子ども支援	名古屋市天白区の原学区・平針南学区で 学習環境困難な小学生の学習サポート。 参加学生をとりまとめ活動支援	毎週土曜 午前中	各コミュニティセンター	原(延113) 平針南 (延74)	協力
3	【天白区との包括協定】 公開講座(天白生涯学習センター 連携講座) 歌舞伎の楽しみ(2019春)	歌舞伎のイロハ① 講師: 安田文吉(人文学部客員教授)、 安田徳子(岐阜聖徳学園大学名誉教授)	2019.4.17～ 5.22 毎週水曜 10:40～12:10 全5回	名古屋キャンパス	19	主催
4	公開講座 江戸歌舞伎(2019春)	歌舞伎百態-八犬伝と影清物を素材に- 講師: 安田文吉(人文学部客員教授)、 安田徳子(岐阜聖徳学園大学名誉教授)、 早川由美(愛知淑徳大学非常勤講師)	2019.4.17～7.3 毎週水曜 18:30～20:00 全12回	長円寺会館	25	主催
5	【名古屋市教育委員会委託事業】 名古屋土曜学習プログラム 「ニュースポーツ体験学習」	名古屋市教育委員会主催による名古屋 市内の小学校体育館で実施の体験学習 指導: 井澤悠樹(スポーツ健康科学部講師)、井澤 ゼミ生	①2019.5.18 ②2019.6.15	①極楽小学校 ②植田南小学校	①44 (22) ②61 (16)	委託
6	【名古屋市教育委員会委託事業】 名古屋土曜学習プログラム 「造形表現体験実習」	名古屋市教育委員会主催による名古屋 市内の小学校体育館で実施の体験学習 指導: 小島雅生(教育学部准教授)、小島ゼミ生	①2019.6.8 ②2019.10.26	①植田南小学校 ②極楽小学校	①70 (6) ②36 (6)	委託
7	公開講座 江戸歌舞伎(2019秋)	令和元年度顔見世狂言と鏡山物 講師: 安田文吉(人文学部客員教授)、 安田徳子(岐阜聖徳学園大学名誉教授)、 早川由美(愛知淑徳大学非常勤講師)	2019.9.18～ 12.4 毎週水曜 18:30～20:00 全12回	長円寺会館	22	主催
8	【天白区との包括協定】 公開講座(天白生涯学習センター 連携講座) 歌舞伎の楽しみ(2019秋)	歌舞伎のイロハ② 講師: 安田文吉(人文学部客員教授)、 安田徳子(岐阜聖徳学園大学名誉教授)	2019.9.18～ 10.16 毎週水曜 10:40～12:10 全5回	名古屋キャンパス	16	主催
9	2020年東京オリンピック・パラリン ピックあいち選手強化事業 次世代につなぐスポーツ人材育 成事業(サッカー)	中学生サッカー選手対象の強化事業(講 義・測定・実習) 講師: 星川佳広(日本女子体育大学教授) 黒須雅弘(スポーツ健康科学部准教授) サポート学生	2020.2.1	三好キャンパス	27 (10)	連携
10	現地を訪ねるシリーズ第6弾 「仏像鑑賞Ⅲ」	「尾張・退休寺の平安仏」について名古屋 キャンパスで2回講義をうけ、3回目に現地 (退休寺)を訪ねた。 講師:小野佳代(人文学部准教授)	2020.2.26～ 3.11 水曜 全3回 10:40～12:10	名古屋キャンパス 420教室	13 (1)	主催

## 【 三好ともいきスポーツクラブ 】

	タイトル	内容	開催月日	開催場所	(学 生 数 ) 参 加 人 数	種別
1	三好健康運動倶楽部	中高齢者向け運動教室 講師: 島岡清(スポーツ健康科学部客員教授) 他	2019.10～ 2020.3 毎週月曜 9:30～10:30	三好キャンパス	延251 (延20)	主催
2	グラウンドゴルフ倶楽部	グラウンドゴルフ 講師: 島岡清(スポーツ健康科学部客員教授)	2019.10～ 2020.3 毎週火曜 9:00～10:00	三好キャンパス	延517 (延3)	主催
3	公園体操	三好丘桜公園での運動教室 講師: 島岡清(スポーツ健康科学部客員教授)	2019.10～ 2020.3 毎週水曜 9:00～10:00	三好丘桜公園	延754	主催
4	スポーツ吹矢倶楽部	吹矢 講師:木村綾子(日本スポーツウェルネス吹 矢協会指導員)	2019.10～ 2020.3 毎月第1・3木曜 9:30～11:30	高嶺公民館	延108	主催
5	ポールウォーキング倶楽部	ポールウォーキング 講師: 島岡清(スポーツ健康科学部客員教授)	2019.10～ 2020.3 毎週金曜 9:00～10:00	三好キャンパス	延1007 (延3)	主催
6	マシントレーニング倶楽部	マシン使用のトレーニング 講師: 島岡清(スポーツ健康科学部客員教授)	2019.10～ 2020.3 毎週土曜 9:00～12:00	三好キャンパス	延202 (延33)	主催
7	ピンポン倶楽部	卓球 講師: 島岡清(スポーツ健康科学部客員教授)	2019.4～9 毎週土曜 9:30～12:00	三好キャンパス	延124 (延41)	主催
8	キッズダンスくらぶ	小学生向けのダンス教室 講師: 田中望(スポーツ健康科学部講師) サポート学生	2019.10～ 2020.3 全20回 火曜 18:15～19:15	三好キャンパス	延348 (延 197)	主催
9	ともいき体操くらぶ	小学生向け体操教室 講師: 岡本敦(スポーツ健康科学部教授) サポート学生	2019.10～ 2020.3 全18回 土曜 9:00～10:30	三好キャンパス	延873 (延 150)	主催
10	走って、投げて、体験して学ぶオ リンピック・パラリンピック (共催:スポーツ健康科学部)	オリパラ競技の体験 講師: 木村華織(スポーツ健康科学部講師)、 黒須雅弘(スポーツ健康科学部准教授) サポート学生	2019.12.7 10:45～12:15	三好キャンパス	26 (9)	共催

※新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、2月28日～3月31日のプログラムを全て中止

## 令和元年度地域連携支援プログラム報告書

発行：東海学園大学

発行年月：令和2年7月

名古屋キャンパス

住所：〒468-8514 名古屋市天白区中平二丁目 901 番地

TEL：(052)801-1201 FAX：(052)804-1044

三好キャンパス

住所：〒470-0207 愛知県みよし市福谷町西ノ洞 21 番地 233

TEL：(0561)36-5555 FAX：(0561)36-6757

